

## Hospital 病院クローズアップ

## 国立病院機構

## 北海道医療センター

「まいにちから まんいちまで」をモットーに、  
 一歩先をいく医療を安全・確実・迅速に行う

当院は北海道の3次救命救急の超急性期から神経難病、小児慢性疾患、結核まで、すべての医療ニーズに対応したハイブリット型の医療機関ですが、実際には政策医療が中心だと考えています。柱の1つが、地域医療の推進と新たなモデルの提案です。もう1つはセーフティネット系の医療です。当院は3次救命救急センターであると同時に、北海道がん診療連携指定病院になっていて、北海道災害医療拠点病院、札幌市災害時基幹病院にも指定されています。

今後取り組んでいきたいのは、病院運営に地域住民が参加してくれるような体制を目指したいということです。健康増進は当然のこと、いろいろな啓発活動も含め、住民の方と情報のやり取りができればと思っています。最近、注目されているACPについても、病院側が積極的に情報を提供していく。それでこそ地域医療ではないかと考えています。

もう1つ、これからの地域連携を考えると、ホスピタリストとしての総合診療医を熱望しています。総合診療医が来てくれれば、高齢者のポリファーマシーの問題やフォーミュラリーの問題にも尽力していけると思っています。

当院のような3次救急から慢性期まであらゆるニーズに応える救急センターは、世界中探してもないと思います。ですから、まさに模索中です。ただ、どんどん変わっていかなければならないという

ダイナミズムに自分も参加して、刺激的な生活を送りたいという人には、是非来てもらいたい。総合診療をどこかで勉強して、当院に来ていただける方がいれば嬉しいですね。

研修医の先生方へのメッセージですが、ジェネラルに診られるのは医師としての根本です。それぞれの専門の診療科に入って行って、ディープに突き詰めていくことは、初期研修の2年間ではまだ必要ないでしょう。当院では救急の教育を中心に考えているので、そこを果たすということと考えれば、やはり上級医とのコミュニケーションをしっかり取れるようになることが大事だと考えます。コミュニケーションが取れなかったら、進歩も発展もないですから。いろいろな人に聞けるという能力は大事だと思います。

私は初期研修の2年間は医師としての態度、それをしっかり身につける時期だと思っています。患者さんを中心に考え、患者さん自身の決断をどう尊重しながらやっていくか。そこまで思いをはせることができるかということが大事です。つまり、この2年間は人間性の陶冶といえますか、そういったところを中心にやっていったら良いと思います。

研修ではいろいろな刺激がありますので、ストレスもたくさんあるでしょう。ただ、その中にどっぷりと浸かるしかないと思います。2年間で解決しようとしても無理なことで、混沌とした中で2年間格闘して過ごすのも良いのではないのでしょうか。



## 院長PROFILE

菊地 誠志（きくち・せいじ）  
 1980年北海道大学医学部卒業。  
 1991年カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学神経内科、2006年札幌南病院神経内科医長、2007年同院診療部長、2008年同院副院長、2010年北海道医療センター副院長を経て、2012年同センター院長に就任。  
 日本神経学会（代議員）、日本神経治療学会（評議員）、日本神経免疫学会（理事）、日本認知症学会（専門医）、American Academy of Neurologyを務める。  
 認定医の資格：日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医

## 北海道医療センター DATA

## ■所在地

北海道札幌市西区山の手5条7丁目1番1号  
<https://hokkaido.mc.hosp.go.jp>

## ■病床数

500床（一般410床、精神40床、結核50床）

## ■診療科目

内科／糖尿病・脂質代謝内科／腎臓内科／心療内科／精神科／脳神経内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／アレルギー科／リウマチ科／血液内科／小児科／外科／整形外科／脳神経外科／呼吸器外科／心臓血管外科／小児外科／皮膚科／形成外科／泌尿器科／婦人科／眼科／耳鼻いんご科／リハビリテーション科／放射線科／麻酔科／救急科、病理診断科

## ■研修の特色

診療科が多く、希望すればどの科も回れます。診療科同士の垣根が低く、気軽に話せて相談ができます。一般の研修病院ではあまりないセーフティネット系の部門も設置。臨床倫理カンファレンスにも積極的に取り組んでおり、患者さん本位の医療はどういうものなのか、自立、自己決定、QOLとは何かということを実例に沿って考えることができます。



地域医療連携室



ER



ICU

大通公園のイルミネーション  
 (写真提供：札幌市)

## 北海道医療センターのある街

## 190万人が暮らす大都市と広大な自然、どちらも楽しめる街

北海道の中心都市である札幌市は190万人が暮らす大都市ながら、郊外は豊かな自然に恵まれていて、これが札幌市の魅力でもある。夏は湿気が少なくとても過ごしやすい。冬はかなりの降雪があるが、「さっぽろ雪まつり」や「ホワイトイルミネーション」などのイベントも楽しめる。

市内にはシンボルでもある「札幌市時計台」に始まり、赤レンガの愛称で親しまれる「北海道庁旧本庁舎」、中島公園内にある「豊平館」、北海道初の図書館をリノベーションした「北菓楼 札幌本店」など、写真映えする建造物がたくさんある。また、周辺には春には桜やライラック、秋にはイチョウやポ

プラ並木などがあり、のんびり散歩するにも良い。

そんな札幌市の西区にある北海道医療センターの近くには、誰でも知っている銘菓「白い恋人」の石屋製菓が運営している「白い恋人パーク」がある。「白い恋人」などの製造過程の見学のほか、クッキーやチョコレート作りも体験できる、お菓子工場&アミューズメントパークだ。庭園が整備されており、英国風のローズガーデンやイルミネーションなどが訪れた人の目を楽しませてくれる。館内にはオリジナルスイーツが楽しめるカフェもあり、「白い恋人ソフトクリーム」が人気だそう。スイーツ好きには必見の場所だ。

